

# 協力会だより

第37号

発行 山梨県立考古博物館協力会 〒400-1508 山梨県甲府市下曾根町923 電話(055)266-3881(考古博物館内)  
平成25年3月31日発行 考古博物館協力会blog <http://www.y-kyouryokukai.jp/>

## 平成23年度 協力会の1年

— 協力会の活動や研修の様子は協力会blogでご覧いただけます —



### 活動

平成23・24年度考古博物館協力員委嘱式(4/24)  
平成23年度協力会総会、ボランティアガイド証交付(4/24)  
ミュージアムショップ(5～2012/3)  
ボランティアガイド(展示解説)(4～2012/3)  
ミュージアムショップ運営委員会(4～2012/3)  
第23回風土記の丘こどもまつり(5/3・4)  
学校・夏休みフリーパスポートイベント勾玉作り体験補助(5～11)  
特別展準備・常設展復旧作業(9/22・23、11/26)  
特別展「縄文土器名宝展」(9/28～11/23)  
古代のもちつき(2012/1/2・3)

### 研修

春季企画展勉強会(5/14・15・17・18)  
夏季企画展勉強会(7/22・24)  
特別展勉強会(10/1・2・5)  
冬季企画展勉強会(12/15・17・23)  
ボランティアガイド研修  
前期(6/17・19)、後期(8/19・21)  
実習(12/18・20)、  
補習(2012/3/2・3・11・23)  
勾玉作り研修(6/30、7/2)  
第1回日帰り研修(7/3)  
第2回日帰り研修(2012/3/4)

❀平成23年度山梨県立考古博物館協力会総会・ボランティアガイド証交付式❀

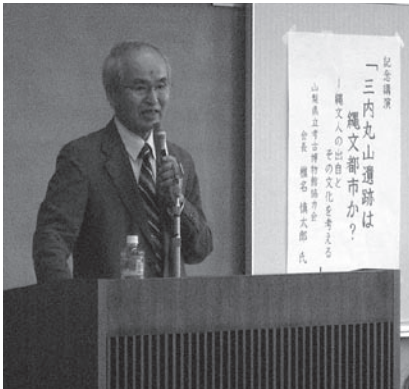


協力会総会



協力員委嘱状交付

平成23年4月24日(日)、風土記の丘研修センター講堂にて平成23・24年度山梨県立考古博物館協力員委嘱式が行われ、今期は73名が協力員に委嘱されました(前年度より継続された方58名、新規の方15名)。引き続き平成23年度考古博物館協力会総会を開催いたしました(出席者41名)。



記念講演

記念講演として協力会会長の椎名慎太郎先生に「三内丸山遺跡は縄文都市か?～縄文人のその出自とその文化を考える～」という演題でご講演いただきました。縄文人はどこからきたか?という基本的小話から縄文集落である三内丸山遺跡の実態に迫るお話までいただき、協力員の知識を深めることができた講演となりました。

同時に会の中では、考古博物館館長よりボランティアガイドの方にボランティアガイドマスター証・ボランティアガイド証が交付されました。引き続きボランティアガイドとして活躍いただくことを願いました。

☆ボランティアガイド証交付者(敬称省略)

ボランティアガイドマスター証 今福 政江 野口 正樹 広瀬 はるみ  
 ボランティアガイド証 眞田 義夫 杉野 美幸 芹沢 昇 藤森 たか子 藤原 貴憲

❀山梨県立考古博物館協力員10年表彰❀

総会の折、県立考古博物館協力員を10年務めた方を「考古博物館運営と地域文化の向上に永年貢献していただき深く感謝と敬意を表する」として考古博物館館長より表彰をしていただきました。今回は4名の方に感謝状と記念品の贈呈が行われました。10年の長きに渡りご協力いただきましたこと感謝いたします。

☆表彰者ー協力員10年(敬称省略)

一木 昭男 亀山 恵之助 西崎 誠 野口 正樹



表彰



ミニ銅鐸(記念品)



表彰された方のあいさつ

～表彰された方にこれまでの思い出などを綴っていただきました～

亀山 恵之助

協力員10年の想いー機会をとらえ研修を楽しむー

平成13年立春のころ協力員に応募し、以後10年間ボランティアとして活動した。  
 協力員はやる気があれば仕事がある。研修ができる。各種の体験学習、勉強会、考古学講座・講演会、県内外研修等がある。私は機会をとらえ参加し楽しかった。  
 例えば「土器と焼物のはなし」講座で①縄文土器②弥生土器③奈良平安の土器と焼物④近世の土器と焼物、以上4回の講義はスライドや資料を通し学習する。今資料を見て思い出している。修了証に焼物博士号授与と書かれおもしろい。ますます研修しなければと思う。  
 また楽しんだひとつに縄文土器づくり大会に応募し、粘土づくりから成形・野焼きまで体験したことがある。酒呑場遺跡出土の区画文深鉢形土器を選定し制作した。装飾や容姿、反りの美しさに惹かれ、縄文人の立場になり完成させた。作品はエントランスホールに展示され嬉しい気分だった。ボランティアをしていたお陰である。楽しい機会を得て感謝している。  
 毎年こどもまつりへ参加できた。古代と遊ぼう狩猟体験、火起こし体験、勾玉作り等に関わり子どもの笑顔に溶け込んで楽しんだ。継続は力、10年を歩んだ思い出となっている。  
 巡回案内ショップ業務等は紙面の都合で省略する。事務局の方々、共に活動した協力員の方々にはお世話になり厚くお礼申し上げます。

考古学探訪

西崎 誠

平成23年度の総会において、協力員として10年務めたことに対して、館長様より感謝状を頂きありがとうございました。永いサラリーマン生活を終えた時、考古学について勉強してみようかとの思いで協力会に入会致しました。この10年間諸々の活動を通していろいろのことを学びました。  
 平成14年4月に勾玉作りの研修を受け、すぐに体験実習の指導協力に携わりました。この経験を元に地元の小学校の工作クラブ活動において、22名の生徒に勾玉作りを教えました。ショップで勾玉セットを買い揃え、1回50分の活動では完成しなかったため、間を置いて2回行いました。一人で教えたことは大変でしたが、担当教師や生徒たちには大いに喜ばれました。地域のためにも少しでもお役に立ったことは良い思い出の一つとして、心に残っています。  
 年の初めには協力員10年を機に退会しようかと思ったこともありましたが、これからももう少し頑張ってみたいと思いますので、皆様のご指導をよろしくお願い致します。



協力員10年の思い

野口 正樹

「2001年4月15日(日)考古博物館協力員委嘱式 Pm1:30より風土記の丘研修センターにて」  
 当時の私の手帳にはそんな記録が残されています。  
 当時私は定年退職直後で、自由な時間を満喫していましたがそれもつかの間、すぐに多忙だった日々が懐かしく思い出され、社会からの孤立感・疎外感にさいなまれはじめ、社会での自分の居場所がない……  
 そんな矢先、目に付いたのが考古博物館協力員募集の記事です。私の関心の対象分野でもありましたのでためらうことなく応募したわけです。  
 あれから10年、このたび勤続10年表彰という栄誉をいただきましたことはまことに感無量です。  
 それというのも、博物館の多くの先生方、協力員の良き先輩諸氏のご指導あつてのことと感謝の念に堪えません。また、同時採用の仲間が多勢出来ましたことも私の大事な宝物です。  
 現在非常に充実した協力員生活を満喫しておりますが、これからも絶えず研鑽と自己啓発につとめ、より質の高い協力員活動を目指そうと気持ちを新たにしています。



## 協力員による展示解説(ボランティアガイド)活動

平成22年度始まった常設展示を中心に解説をするボランティアガイドはボランティアガイドマスター証・ガイド証を受けた方が交替で行っています。マスターガイドにおいては、常設展示だけではなく特別展や企画展のガイドも行い、活動の幅を広げています。これからも来館者の皆様のためにわかりやすいガイドをよろしくお願いいたします。

### ボランティアガイド奮闘記

博物館の諸先生方から指導を頂き、ガイドとして解説活動を始めてから1年有余経過しました。

全く未経験の分野のガイドでもあり不安一杯のスタートだったのですが、振りかえって自己採点するとまあまあ合格点であろうか、と自己満足しています。

この間、多くのお客様に接し、考古学の魅力や山梨の歴史、当館の見所などを伝えてきましたが、多くのお客様から説明終了時に「楽しかった」、「勉強になった」、「説明を聞かなければただ通りすぎるだけだったのに、よくわかった」等々の感想を頂きましたし、その後も資料を送って下さったり、文通を続けている方もいらっしゃいます。まさにガイド冥利に尽きるというものです。もちろん、いいことばかりではありませんが・・・

知識の押し売りや独善、自己満足に陥らないよう、常にセルフチェックしながら御お客様の言葉を励みに今後も活動を続けていこうと思います。また、たえず新しい、より正確な情報知識の摂取、絶え間ない自己啓発の実行も必要不可欠です。長続きさせるポイントは、それとふれあいを楽しむ精神であると確信するからです。(野口 正樹)



第29回特別展「縄文土器名宝展」の解説

※ボランティアガイドの実施予定日は考古博物館ホームページに掲載されています。

## 平成23年度 第1回目帰り研修

### 東日本第3の巨大古墳群馬県浅間山古墳への旅

平成23年7月3日(日)に平成23年度第1回目帰り研修「東日本第3の巨大古墳群馬県浅間山古墳への旅」を40名(協力員28名、一般の方9名、事務局3名)参加のもと開催しました。

#### 研修地

- ①国指定史跡 浅間山古墳  
(群馬県高崎市)
- ②国指定史跡 大鶴巻古墳  
小鶴巻古墳(群馬県高崎市)
- ③多胡碑記念館  
国指定特別史跡 多胡碑  
(群馬県高崎市)
- ④安中市ふるさと学習館  
(群馬県安中市)



安中市ふるさと学習館にて 研修参加者



浅間山古墳



大鶴巻古墳(墳頂部)

平成21年度の研修で訪れた東日本第1の前方後円墳群馬県太田市の天神山古墳に引き続き、第3の前方後円墳国指定史跡浅間山古墳(全長171.5m)を訪れました。築造年代は4世紀末から5世紀初頭と推定されています。本県の甲斐銚子塚古墳と比べながら見学しました。また浅間山古墳近くにある国指定史跡大鶴巻古墳(4世紀末から5世紀初頭の築造と推定 前方後円墳全長123m)、小鶴巻古墳(5世紀後半築造 前方後円墳全長87.5m大鶴巻古墳近接)もあわせて見学しました。



多胡碑

多胡碑記念館では、学芸員の方の案内で貴重な石碑の拓本をたくさん見せていただきました。また館の外に出て奈良時代初めの和銅4年(711)の年号が記された、那須国造碑、多賀城碑と並ぶ日本三大古碑のひとつである国指定特別史跡多胡碑を見学しました。また、安中市の歴史をわかりやすく展示している安中市ふるさと学習館では学芸員の方の解説のもと山本菅助の存在を示す『真下家(ましもけ)文書』を見学しました。

今回の研修は、古墳についてさらに知識を深めるとともに、群馬で話題になっている武田氏関係の資料も見、中世の歴史も学ぶことができ実りあるものとなりました。



安中市ふるさと学習館 常設展示



「武田晴信判物」

**研修記** ～研修に参加して、知ったこと 感じたこと 考えたこと～

浅間山古墳



小鶴巻古墳



大鶴巻古墳



多胡碑・多胡碑記念館



安中市ふるさと学習館



写真  
協力員 高野 和正

～ 研修記 1 ～

日頃、協力員としての活動が出来ず、肩身を狭くしながら参加させて頂きましたが、充実した一日を過ごすことが出来ました。移動中の車内で解りやすい保坂課長さんの説明で初めて見る浅間山古墳、大鶴巻古墳をとっても身近に感じる事が出来ました。“考古はロマンだ！”といつも思っていましたが、古代からの英知が地道にしっかり今の世に残されているのは素晴らしい事ですね。有名な多胡碑の実物も拝見出来て幸せでした。これを機会に友人達にも考古博物館のイベント等話をして、考古の魅力を知って欲しいと思っています。考古博物館の皆様にはお世話になりました。(俵 不二江)

～ 研修記 2 ～

東日本の巨大古墳を巡る研修も今回で太田天神山古墳に次いで二つ目となりました。

古代史のなかでも特異な存在感のある上毛野国、群馬県。行く前から期待やうれしいやらでわくわくしていました。そして待ちに待った大古墳の前に立ちました。そこにある、自然と一体化し悠然と厳かに鎮まる浅間山古墳。ていうか、きれいに整備された我が甲斐銚子塚古墳を見慣れた目にはもうちょっとお手入れしたほうが・・・いったいここに葬られているのは誰なのか？決して答えの事ではないと知りつつ古墳の前に立つといつも頭に浮かぶ疑問。架空の人物ではない、確かに実在したのに名がわからない。どんな人だろう？顔つきは？背丈は？どんな言葉で何を話したのか？自問自答は尽きません。

およそ1600年前の古代、このあたりに確かに大首長が支配する庶民の生活があり、古墳を造る人々のざわめきと喧騒があり、厳粛な葬送儀礼が行われたのだ。そんな情景を目の裏に思い描き、感情移入しつつ次の目的地、多胡碑に向かいました。以前、那須で偶然にも「那須国造碑」を見学する事ができ、また博物館のショップにある古石碑の文献を読んで「日本三古碑」の存在を知りました。

以来三古碑をみるのが目標となりました。今回はその二つ目です。ずっしりと建つ古碑に歴史の重みを実感しました。また、葉研彫りかと思ったら丸底彫りであるのも驚きでした。

群馬県には他にも古碑が多いのに、山梨県ではあまり聞かないのはなぜなのか？そんな疑問を抱きつつ帰路につきました。(野口 正樹)

## 平成23年度 第2回目帰り研修

### 特別史跡 登呂遺跡と世界文化遺産「富士山」構成資産への旅

平成24年3月4日(日)、日帰りの県外研修「特別史跡 登呂遺跡と世界文化遺産「富士山」構成資産への旅」を協力員26名、一般の方7名、事務局5名の38名参加のもと開催しました。

#### 研修地

- ①国指定特別史跡 登呂遺跡  
静岡市立登呂博物館(静岡県静岡市)
- ②富士市立博物館(静岡県富士市)
- ③富士山本宮浅間大社(静岡県富士宮市)
- ④山宮浅間神社(静岡県富士宮市)
- ⑤村山浅間神社(静岡県富士宮市)



特別史跡 登呂遺跡にて 研修参加者

近年再発掘調査・整備が行われた特別史跡登呂遺跡、一昨年リニューアルオープンした登呂博物館を見学しました。学芸員の案内のもと常設展では登呂遺跡から数多く発掘された木製品をはじめとする出土品を、特別展「赤い土器の世界～登呂式土器の赤彩を探る～」では、登呂遺跡や愛知県・長野県の弥生時代の遺跡から出土した、赤色顔料(ベンガラ)で塗られた弥生土器などを見ました。野外では、復元された住居や祭殿などを見学し、弥生時代の農耕集落である登呂遺跡について学びました。

「富士に生きる－紙のまちの歴史と文化－」をテーマとしている富士市立博物館では、学芸員の方と共に富士市の歴史を概観しながら、富士山信仰に関する展示を見学し、富士山信仰について知識を深めました。

また、平成25(2013)年の世界文化遺産登録を目指している「富士山」の構成資産であり、全国の浅間神社の総本宮である神社富士山本宮浅間大社、古代の人々が遙拝した場所である山宮浅間神社、神仏習合の姿を留める村山浅間神社(史跡富士山)を見学しました。これらの『信仰の対象』としての富士山の顕著な普遍的価値を表すものを見て、富士山信仰についての認識を新たにしました。

この研修で得たことが今後の糧になるよう期待いたします。

※協力員の研修記は協力会blog(平成24年3月15日掲載記事)でご覧いただけます。



登呂博物館常設展



富士市立博物館



富士山本宮浅間神社



山宮浅間神社



村山浅間神社

## ミュージアムショップ運営委員会活動報告



ミュージアムショップ研修



ミュージアムショップ 夏休み特集コーナー

平成23年度は、協力員の中から8名の委員でスタートしました。委員会では、協力員の方がショップ当番の際にスムーズに対応できるように、また来館者の方にお土産などを提供する方法的検討などを行っています。

このために、特別展期間中などを除いた月1回ほどショップ運営委員会を実施しました。内容は、ショップの売り上げ等報告の他、ショップの運営方法・ミュージアムショップ通信発行・オリジナルグッズ製作などについて話し合いました。

年度当初には、職員の方にも協力していただいて初めて協力員になった方を対象にミュージアムショップ研修を行いました。ショップでの心構えと具体的な業務内容について実地を交えたものでした。ミュージアムショップ通信では、ショップ当番の際のワンポイントアドバイス、オリジナルグッズの紹介をしたものを配布しました。不定期ではありますが、今後も発行して行きます。

来館者に対する活動としては、毎月第4土曜日の考古博物館の日に限定商品の特別販売を行いました。また、夏休み期間に合わせて、オリジナルの勾玉作りセットなど工作・体験活動ができる商品を集めた特設コーナーも設けました。今後の商品充実のために、職員の方と協力しながらオリジナルグッズの開発・販売も進めています。

ショップ運営・商品について、これからも改善していきたいと思っておりますので、ご意見・ご協力をお願いいたします。（ミュージアムショップ運営委員 野呂 忠敏）

☆平成23年度ミュージアムショップ運営委員(敬称省略)

委員長 広瀬 はるみ 副委員長 一瀬 順司 副委員長 野呂 忠敏  
委員 今福 政江 大久保 長仁 杉野 美幸 芹沢 昇 堀内 淳子

考古博物館の華



協力員 原田 みゆきさんの生け花  
(考古博物館受付側)



協力員 山地 千恵子さんの手作りの置物  
(考古博物館受付カウンター)



編集後記：新規協力員さんを迎えてスタートした平成23年度の協力会でした。協力員の皆様には考古博物館を大いに盛り立てていただき感謝いたします。引き続きご支援、ご協力をお願いいたします。(事務局)